

カ月連続して前年同月実績を上回り、2カ月連続の900万トン台となった。10月の1日当たりの生産量は30万6,700トン（年率1億1,190万トン）で、前月の30万7,900トンをわずかに下回ったが、依然として高水準を維持している。しかし、中国の需給調整や円高により輸出環境が悪化し、国内でも景気刺激策の息切れによる需要減懸念が強まる中、今後生産調整色が鮮明となるとの見方が強くなっている。1～10月の累計生産量は9,144万トンで、前年同期を3割強上回っている。

財務省が発表した10月の貿易統計によると、全鉄鋼ベースの輸出は前年同月比0.6%減の337万7,000トンとなった。微減ながら15カ月ぶりに前年割れに転じたものの、10月として高水準を維持している。輸入は同19.5%増の61万8,000トンと10カ月連続で前年を上回った。国別の輸出先をみると、韓国・台湾などアジアNIE's諸国向けが122万8,000トン（同14.1%減）と4カ月連続で前年割れだったが、中国は59万1,000トンと4カ月ぶりに増加に転じた。ASEAN向けも94万6,000トン（同12.6%増）と前年の低迷の反動もあって、増勢が続いている。国別輸入ではアジアNIE'sからが29万6,000トン（同7.0%増）、中国からが11万3,000トン（同74.8%増）、ロシアからが2万9,000トン（同29.1%減）だった。

◆10～12月粗鋼生産計画、2,820万トン

経済産業省は、鉄鋼各社からヒアリングした10～12月期生産計画の集計結果を発表した。それによると、粗鋼生産量は2,820万トンで前期比3.1%、85万トン増となり、リーマン・ショック後最高値となった。経済産業省が前月に策定した10～12月期見通し（2,698万トン）よりも約120万トン、4.5%多い。高炉トラブルによる在庫補充や電炉の夏季減産の反動も加味されているが、これを差し引いて全体で50万トン程度の増産になる。

国内需要は、堅調だった自動車販売が9月のエコカー補助金終了で減少に転じるなどマイナス要因もあるが、一方で旺盛な海外需要を背景に自動車のKD部品の輸出が好調を持続している。季節要因の建設需要増もあり、鋼材の生産計画は2,424万5,000トンと前期より2.1%、50万トン増加する見通しとなっている。10～12月期の生産計画を織り込んだ2010年（1～12月）の粗鋼生産量は1億1,013万トンとなる見通しである。暦年生産量としては過去12番目の水準だが、対前年比の増加率は1970年以降で最高の26%となる。

◆鉄鋼業界、2010年度上期業績結果

新日本製鉄、JFEホールディングス、住友金属工業、神戸製鋼所の高炉大手4社の2010年度中間決算が揃って発表された。それによると、国内外の鉄鋼需要の回復によって鋼材販売量が戻り、各社とも連結経常損益は前年同期の赤字から黒字に浮上し、従来予想を上回った。各社の連結経常損益は、新日鉄は前年同期869億円の赤から1,348億円の黒へ、JFEHDが574億円の赤から1,049億円の黒へ、住金が476億円の赤から289億円の黒へ神戸製鋼が442億円の赤から493億円の黒へといずれも収益が改善した。下期は国内の景気不透明感が払拭できず、海外では中国の需給調整が長引き、円高による輸出競争力の低下もあって厳しい事業環境が続く見通しである。2010年度通期の連結経常損益見通しは、新日鉄が2,500億円、JFEHDが2,200億円とそれぞれ従来予想を据え置き、住金は900億円を700億円に下方修正、神戸製鋼が750億円を800億円に上方修正した。

普通鋼電炉17社の2010年度中間決算は、原料高と製品需要の低迷で総じて厳しい収益状況が続き、中でも小棒メーカーで赤字が目立った。一方、一般形鋼や厚板メーカーは堅

調な利益を確保し、生產品種によって収益に格差が表れた。経常ベースで7社が前年同期比で赤字、5社が減益となった。中部鋼板と東京鋼鉄が増益で、トピー工業と中山製鋼所、JFE 条鋼が黒字転換を果たした。通期業績では、下期の需要に対する不透明感が反映され8社が利益予想の下方修正を発表した。

特殊鋼専業5社（大同特殊鋼、愛知製鋼、山陽特殊鋼、三菱製鋼、日本高周波）の中間決算は、前年下期以降自動車や建設機械の需要が堅調で増益基調が続き、前年同期には5社ともに経常赤字であったの対して揃って経常黒字を計上し、収益は大きく改善した。売上高経常利益率（ROS）はトップの山陽が9%、2位の大同が7%と高収益となった。各社とも下期も高水準の受注が続くとみており、通期でも好決算になると見込まれている。

表1 高炉4社2010年9月中間期決算

		(単位:億円)		
		売上高	経常利益	当期利益
新日本製鉄	10.9	20,220	1,348	710
	09.9	15,733	△869	△718
	11.3	41,500	2,500	1,300
J F E H D	10.9	15,722	1,049	460
	09.9	13,067	△574	△286
	11.3	33,600	2,200	1,100
住友金属	10.9	6,937	289	348
	09.9	5,987	△476	△466
	11.3	15,000	700	600
神戸製鋼	10.9	9,220	493	294
	09.9	7,881	△442	△453
	11.3	19,100	800	450

◆10月世界粗鋼生産5カ月ぶり前月比増

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた10月の世界粗鋼生産（66カ国）によると、前年同月比2.4%増の1億1,756万トンとなり13カ月連続しての前年比増となり、前月比でも4.6%増と5カ月ぶりに増加した。全体の4割超を占める中国の生産が5カ月ぶりに増加し、中国以外も2カ月連続で増加した。66カ国の製鋼操業率は前月比0.6ポイント高い75.4%と2カ月連続して改善した。粗鋼日産量は66カ国で前月比1.3%増と2カ月連続して増加した。

中国の日産量は1.5%増、中国以外は1.1%増であった。中国の生産は5,030万4,000トンと2カ月ぶりに5,000万トンを回復したものの、前年同月比では3.8%減と3カ月連続の前年実績割れだった。ピークだった5月に比べ10.4%減となっている。中国以外の粗鋼生産は6,725万8,000トンと、直近底であった8月から9.4%増加した。月間7,000万トンを超えていたリーマン・ショック前の水準には及ばないが、直近ピークだった5月比で1.7%減の水準まで回復してきた。

主要国・地域では米国が前月比0.6%減、ロシアが同じく0.6%減となった以外は、すべて前月比増となった。なかでもインドは575万トン（同8.8%増）と月間最高だった7月と同水準となり、韓国が520万6,000トン（同11.8%増）と5月の月間最高を更新した。好調な生産が続く両国は年間で過去最高であった2008年実績を上回るものと見込まれている。

1～10月の66カ国生産は11億6,512万トンと前年同期比17.5%増加した。10月の水準が、11月、12月も続けば年間で初の14万トン台に達し、過去最高だった2007年を上回ることになる。 □